

まほらいな市民大学の様子

令和7年11月29日（土）第47回高遠町桜大学第4講座

『 論語を通して学ぶ喜びを知る～學即得の心を読む～ 』

講師 漢学者・論語講師 安岡 定子 氏



「學即得」は高遠の進徳館で学び、後の明治の新教育の指導者として活躍した伊澤修二先生の言葉です。安岡定子先生から「論語」の話を聞きました。

論語 第一章 『学んで時に之を習う、亦(また)説(よろこ)ばしからずや。

朋(とも)有り、遠方より来たる、亦樂しからずや。

人知らずして慍(いきどお)らず、亦君子ならずや』

「学んだら復習（反復）する。できるようになるとうれしいものだ。人と比べるのではなく、自分と向かい合って納得いくまであきらめずに学ぶとよい。(続く)・・・」

安岡先生はこの文の意味を今の生活にあてはめ、平易な言葉で教えてくれました。

『教え有りて類なし。(有数無類)』『性、相近し。習い、相遠し。』『君子は文を以って友を会し、友を以って仁を輔(たす)く。』

これらについても「自分を磨き、よい習慣を身につけ、仁＝人間力を高めていく・・・」と分かりやすく解説してくれました。自分を省みて、これからの生き方を学ぶとてもよい機会となりました。

学生からは、「非常に分かりやすい講義で、安岡先生の言葉が心に沁みました。」「普段なじみのない古典の中に大変深い意味があることを学びました。自分との対峙、人間としての基本、自己の成長：よい習慣。大人もこどもも学習する価値があると思いました。」「

「2500 年前の論語に現代でも必要な教えがあり、人としてのあり方を考えさせられました。」「學即得の意味を知り、得は徳を積むに通ずるのだと知ることができました。」「高遠町公民館長の言葉：論語は人生の教科書。論語を読みたいと思った。」といった感想がありました。